

○ 領域「A表現」の内容はどのように改善されたか。

音楽科の内容は、「A表現」と「B鑑賞」の2領域と新設された〔共通事項〕で示される。

ここでは、今回の音楽科の改善の基本方針に基づき改善が図られた領域「A表現」の具体的内容について示す。

「A表現」

「A表現」の指導項目については、**歌唱、器楽、音楽づくり**ごとに指導内容を整理して示すとともに、表現で取り扱う教材を示している。

1 「(1) **歌唱**の活動を通して、次の事項を指導する」について

音楽を聴いたり楽譜を見たりして歌うこと、曲想を感じ取って歌唱の表現を工夫し自分の思いや意図をもって歌うこと、歌唱の活動を支える歌い方を身に付けるとともに楽曲に合った表現をすること、声を合わせて演奏することを通して、基礎的な歌唱の能力を高めることについて示している。低・中・高学年の指導のポイントは次のとおりである。

- 【低学年】自分の思いをもって歌う。
- 【中学年】自分の思いや意図をもって歌う。
- 【高学年】自分の思いや意図をもって創造的に歌う。

また、中学年及び高学年に「声を合わせて歌うこと」を新たに設けた。

2 「(2) **器楽**の活動を通して、次の事項を指導する」について

音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏すること、曲想を感じ取って器楽の表現を工夫し自分の思いや意図をもって楽器を演奏すること、器楽の活動を支える演奏の仕方を身に付けるとともに楽曲に合った表現をすること、音を合わせて演奏することを通して、基礎的な器楽の能力を高めることについて示している。低・中・高学年の指導のポイントは次のとおりである。

- 【低学年】自分の思いをもって演奏する。
- 【中学年】自分の思いや意図をもって演奏する。
- 【高学年】自分の思いや意図をもって創造的に演奏する。

また、中学年及び高学年に「音を合わせて演奏すること」を新たに設けた。

3 「(3) **音楽づくり**の活動を通して、次の事項を指導する」について

児童が様々な音と新鮮な気持ちをもってかかわり音の面白さに気付いたりその響きや組合せを楽しんだりしながら、様々な発想をもって音遊びをしたり即興的に表現したりする能力及び音を音楽へと構成していく能力を高めることについて示している。低・中・高学年の指導のポイントは次のとおりである。

【低学年】音を音楽にしていくことを楽しみながら音楽の仕組みを生かし、自分の思いをもって簡単な音楽をつくる。

【中学年】音を音楽に構成する過程を大切にしながら音楽の仕組みを生かし、自分の思いや意図をもって音楽をつくる。

【高学年】音を音楽に構成する過程を大切にしながら音楽の仕組みを生かし、つくろうとする音楽について見通しをもって音楽をつくる。(高学年)

また、今回の「音楽づくり」には、既存の作品を創意工夫して表現する活動は含めておらず、歌唱及び器楽の活動において指導することとした。

4 「(4) 表現教材は次に示すものを取り扱う」について

歌唱及び器楽教材を選択する場合の観点及び歌唱共通教材について示している。